

Q&A

正常肝に認めた多血性肝腫瘍の 1 例

【問 題】

症例：30 歳代女性。

主訴：特になし。

現病歴：201X 年、検診の超音波で肝左葉に長径約 3cm の腫瘍影を指摘され、当科を受診した。

既往歴：特記事項なし。

生活歴：飲酒歴なし、喫煙歴なし。

血液検査所見：WBC 6000/ μ L (分画に特記すべき異常なし), RBC 478 万/ μ L, Hb 14.3g/dL, Plt

21.3 万/ μ L, TP 7.7g/dL, Alb 4.8g/dL, AST 13U/L, ALT 11U/L, GGT 14U/L, ALP (JSCC) 175U/L, T-Bil 0.6mg/dL, D-Bil 0.1mg/dL, BUN 9.7mg/dL, Cr 0.62mg/dL, PT-INR 0.91, Glu 104mg/dL, HbA1c 5.6%, IgG 1367mg/dL, AFP 4ng/mL, PIVKA-II 13mAU/mL, CEA 2.0ng/mL, CA19-9 24U/mL, 抗核抗体 陰性, 抗ミトコンドリア M2 抗体 <0.5U/mL, HBs 抗原 陰性, HBs 抗体 陰性, HBe 抗体 陰性, HCV 抗体 陰性。

腹部超音波画像：肝 S2 に 3cm 大の内部高エコーと低エコーが入り混じった占拠性病変を

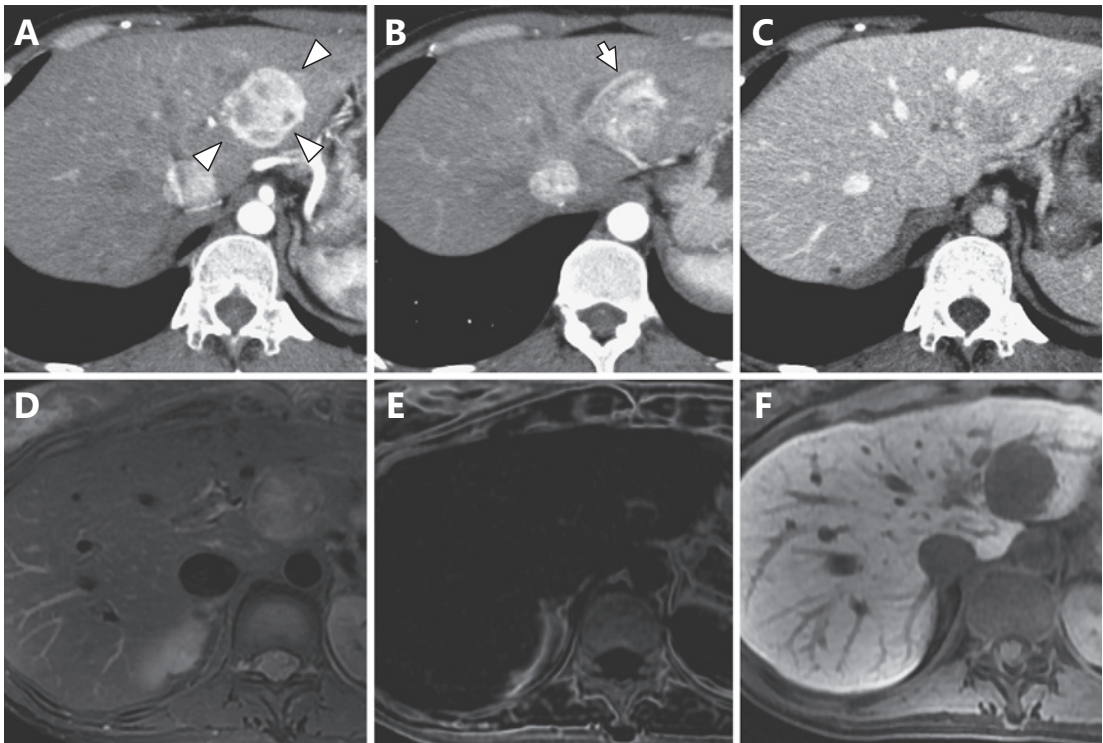


Figure 1. 上段：肝ダイナミック CT. (A) 動脈相. S2 に不均一に造影される 3cm 大の腫瘍を認める. (B) 動脈相. 早期静脈還流を認める. (C) 門脈相. 腫瘍の大部分に造影剤の wash-out を認める. 下段：Gd-EOB-DTPA 造影 MRI. (D) T2 強調画像. (E) T1 強調画像 in-phase/opposed-phase のサブトラクション. (F) 肝細胞相.

認める。

ダイナミック CT および Gd-EOB-DTPA 造影 MRI (Figure 1).

1. 鑑別すべき疾患は？
2. 最も可能性の高い疾患は？